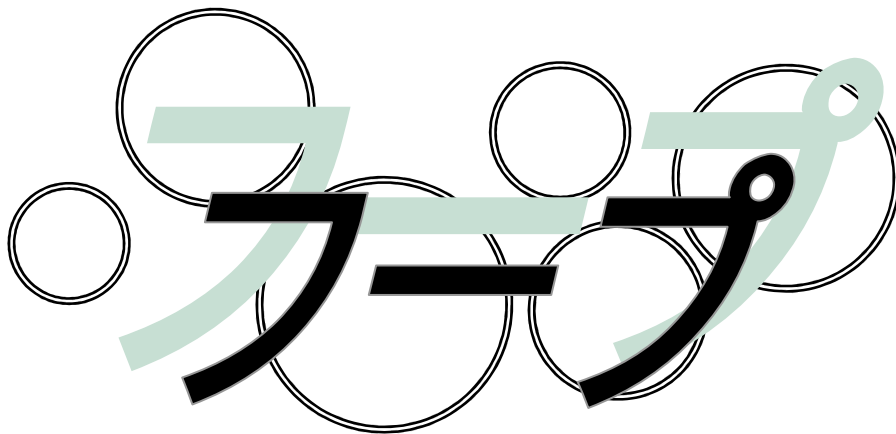




～（女性建築士の輪）～

奈良県建築士会 女性委員会
2012 年 秋号
第 72 号



香川・直島の旅

目 次

- | | | | |
|---|-----------------------|------------|-------|
| ■ | 2012琵琶湖ペーロン | | 1 ページ |
| ■ | 香川・直島の旅 | 庄田 尚代 | 2 ページ |
| ■ | 9月の研究部会「松花堂庭園・美術館見学会」 | 宮崎真友美・杉田数代 | 4 ページ |
| ■ | 私と建築 | 瓶割 環 | 6 ページ |
| ■ | 今後の事業予定 | | 7 ページ |

「2012 琵琶湖ペーロン」

日時 ; 8月19日(日) 8:00~17:00

場所 ; 大津湖岸なぎさ公園

サンシャインビーチ 滋賀県大津市由美浜

近畿建築士会協議会女性部会(通称;近建女)では、平成24年度交流事業として、琵琶湖で開催されるペーロン大会に、近畿で1艇(10人乗り)を出艇となりました。

奈良県建築士会女性委員会からは漕ぎ手は出ませんでしたが、応援団員として、山本委員長をはじめ、本保副委員長、杉田副委員長と宮崎副委員長が参加、大会終了後、青年部会と合同のBBQ交流会にも出席されました。

大会は、暑い最中ですが、皆さん元気いっぱいの大活躍でした。応援、交流お疲れ様でした。

(途中、ゲリラ豪雨に見舞われ、滋賀県建築士会の皆様にはご準備、豪雨中の炭火の保護、後片付け等、ご苦勞をお掛けし感謝申し上げます。…参加者談)



『香川・直島の旅』

庄田 尚代

8月3日（金）～4日（土）教育事業委員会・女性委員会・青年委員会主催の一泊二日の見学会に参加させていただきました。前々から行ってみたかった美術館ツアーだったのでとても楽しみでワクワクでした。

訪れた順に印象などを書かせていただきます。

最初に美術館の設計で超有名なモダニズム建築家谷口吉生氏の丸亀市の「猪熊弦一郎現代美術館」を訪れました。

正面エントランスの大空間にある約 20m×10m 程の巨大な白大理石の壁画作品に圧倒されました。

（ここで記念撮影）内部は、自然光の差し込む大空間の展示スペースとなっていて、現代アートが数多く展示されていました。香川建築士会青年委員会と女性委員会の方々がご一緒してくださいました。



「猪熊弦一郎現代美術館」エントランス巨大壁画の前で

続いて瀬戸内海の傍らにあり瀬戸大橋を一望できるような素晴らしいロケーションの「香川県立東山魁夷せとうち美術館」に到着しました。こちらも谷口氏の設計で、長い「道」のアプローチの手前に立つと一枚の緑がかった黒いスレートの大壁が横に貫いていて海は全く見えないような形になっていました。建物の中に入って東山画伯の作品を鑑賞し、カフェにたどり着くといっきょに視界が開けて初め

て瀬戸内海を臨むことができる仕掛けになっていました。



「香川県立東山魁夷せとうち美術館」海側展望デッキ

それから香川建築士会の方の案内で香川県庁舎、市内の近代建築を探索し1日目は終わりました。高松中心地の商店街は整備されており、日本一長いと言われているアーケードの中心部のドームはシンボリックでまるでミラノのガラリアのようでした。

地元で有名な「ごえもん」のアサリうどんは大変おいしかったです。



高松市商店街アーケードガラリア

二日目はチャーター船で直島に渡りました。海からの瀬戸大橋と高松市内の眺めを楽しみながら、海の駅「なおしま」に到着しました。

ほんの数十分の滞在でしたが、シャープで薄い屋根と屋根を支える非常に細い柱は存在感を消して海に溶け込んでいました。



道の駅なおしま

また船に乗り込みベネッセ港に降りました。前々からずっと来たかった安藤忠雄氏設計の地中美術館です。予約制で入場制限があり、なかなか訪れることが難しいと噂の美術館でしたが、運良く強行突破で入館することができました。外観は入口のゲート以降写真撮影禁止で門外不出のような重々しい中、何とか目と心に焼き付けておこうと神経をとがらせて廻っていました。名前の通り建物はほとんどが地中にあり外観全体は目にする事ができませんが、建築と作品が一体となった内部空間でした。〇〇ランドのアトラクションに並ぶような感覚で、順番を待ち、スタッフの案内で展示空間へはいり、自分が芸術作品の一部となれるのです。



地中美術館入口

また船に戻り、豊島へ向いました。

西沢立衛氏設計の豊島美術館は小高い丘の上の棚田の一部分にほんとに地面に落ちた大きな水滴よう

にコンクリートで形作られていました。その外殻は2 か所パクッと丸く切り取られていて、そこから周囲の風と光、音を内部に取り込んでいました。建築であり作品『母型』である内部空間では、いつからかどこからかともなく水滴（泉）が誕生し、少しずつ形を変えていき、近くにあった他の水滴と合体して更に大きな水滴となって、アメーバーのように動いていきます。言葉ではうまく表現できませんが、その作品の中に身を置いた者だけが感じることが出来るものです。



その後ミュージアムショップでスッと伸びた青い稲穂のような「KUSA」というオブジェをお土産に購入しました。

「KUSA」は、リビングで家族が通るたびにゆらゆらと揺れています。



豊島美術館カフェ内部

4 つの美術館を効率よく廻ることができ充実した日を送ることができました。

9月 研究会

寸法などを記した江戸時代の図面を復刻して組み立てた「おこし絵図」。
約22000平方メートルの池泉回遊式日本庭園には約400種類の竹。

平成24年度最初の研究部会事業『松花堂庭園・美術館見学会』が9月22日(土)に開催。
気温30度、この50年で最も暑いという記録的残暑の中、うちわ片手に蚊と格闘・・・
まずは、約1時間ボランティアガイドの方のご説明を受けながら庭園散策へ。



【見学先概要】

名称 松花堂美術館
所在地 京都府 八幡市八幡女郎花

【参加者】

人数 7名 (女性委員)

竹の名園としても知られる松花堂庭園。竹林の清々しさに心が洗われる。孟宗竹の突然変異、「金明孟宗竹」。一節おきに緑色の縦縞が入っている。





竹の中で最も美しい「金明孟宗竹」の竹林を借景として取り入れられ、北入りの貴人口を持つ茶室『竹隠』



竹林を抜けるとある楊梅（ようばい）通称ヤマモモの大きな樹。



集合写真の様子
参加者7名（女性委員）



昔、紙の代わりに手紙を書いていたという植物、多羅葉（たらよう）

「松花堂庭園」は近衛応山公・本阿弥光悦と共に、寛永の三筆と評された書の名人、書画・茶道・作庭などに通じた文人で、石清水八幡宮の学僧である松花堂昭乗の草庵・松花堂を中心に石清水の泉殿客殿・庭園を併せ、明治二十四年現在の地に移築、平成十四年（2002）美術館が開設され、「松花堂庭園・美術館」という文化施設として新装オープン。今年、開館10周年目を迎える。

残暑厳しい9月22日（土）午前、参加者7名は玄関でボランティアガイドに出迎えられ、その後、案内がスタート。約400種の竹がある約22000平方メートルの広大な池泉回遊式日本庭園、茶室（松隠・竹隠・梅隠）、そして内園にある草庵・松花堂へと案内は続く。ここでは昭乗が生きていた時代の庭園の風情が偲ばれる。

その後、併設された料亭『吉兆』で一品一品手間ひまかけられた確かな味付けを堪能し、「平成24年秋季館蔵品展 松花堂の茶の湯」が開催されている美術館へ。松花堂の寸法などを記した江戸時代の図面を復刻して組み立てた「おこし絵図」からは現在の建物は当時ほぼ近い形で移築されたことをうかがい知ることができる。学芸員によるギャラリートークにも参加し、絵図には記されていない現在ある窓についての質疑も活発に行い、今年度初の研究

部会見学会は充実したものとなりました。

（宮崎眞友美）

女性会員の皆様には、お忙しい中アンケート調査にご協力頂き有難うございます。

研究部会に頂きました皆様のご意見を紹介させて頂きます。

- *資格の勉強 *CAD の勉強 *CASBEE の勉強
 - *長期優良住宅の勉強 *ソーラーパネルの納まり
 - *左官材料のことを詳しく勉強したい
 - *住宅の歴史について *自然との共生について
 - *東北震災復興につながる活動の勉強
- 等の回答を頂きました。有難うございました。

「左官材料のことを詳しく」とのご意見に添うか判りませんが、明年2013年 1月19日（土）竹中大工道具館にて開催される、「技と心のセミナー」の内容は、「（仮）お茶室のつくり方」、茶室の壁は、一般的な壁よりも薄く、手間も数倍かかるといわれ、曲がった柱もよく使われ、柱や下地窓のおさめ方を見ると、細心の心遣いに触れることができる等のお話があります、セミナー講演を聞きに行く企画を検討してみようかと考えております。頂きました回答に添って検討を重ねてまいります。

（研究部会担当副委員長 杉田数代）



秋の七草の一つで漢方薬としても使われる女郎花（おみなえし）。ちょうど黄色い清楚な花が咲く様子。



千宗旦好みの茶室を再現した茶室『梅隠』



吉兆創業者の湯木貞一は松花堂昭乗が使っていた四つに仕切られた箱を懐石料理に使うことに見立てた。



松花堂美術館前の様子

『 私と建築 』

瓶割 環



私が生まれ育ったのは、京都府の丹波地方の自然溢れるかなりな田舎でした。住んでいた家の、曾祖父の代に建てられた100年近くたった家を手を入れながら住んでいました。田の字型の間取りに、土間にかまど、屋根は藁葺きの上にトタン屋根。ただ、私の成長する過程で、急速に変わってしまいました。すべてが機能的になったものの、ピカピカの新建材と古い柱と梁の混在する空間は、子供ながらにすごく違和感がありました。その反面、友達の家と比べるとかなり古かったので、部分的にでも新しくなった事がすごく嬉しかった記憶もあります。

この実家の移り変わりを目の当たりにした事こそが、私が建築の道に進むことになったきっかけのような気がします。家族の中で私だけがちょっと違った道に進んだので、両親は戸惑い気味でしたが、よく聞いてみると、戦争で亡くなった祖父は大工さんだったとか……。これも遺伝子の仕業かと勝手に家族で納得しておりました。（笑）自分の中では、中学校の頃に建築の道へと決めていて、一度もブレず建築の学校へ進んだ事は自分でもびっくりしています。

大学へ進んでからは、色々な建築家の作品にふれたり、建築の構造や都市計画、歴史など専門的な事も学び、世界は広がりましたが、就職をする時には、やはり自分が建築の道に進もうと思ったきっかけになった「住宅」にかかわって行きたいという気持ちが強く、住宅会社に入社しました。

働き始めは、わからない事だらけで、覚えることに必死で、そこから考えを広げるとか、方向転換すると全くできなくて、浅い考えのまま進めてしまい失敗。何度も繰り返していたような気がします。

でも「建築」というのは奥が深いですね。もう社会に出てから15年が経ちましたが、まだまだわからない事だらけです。ただ今となっては、答えはいくつもあるような気がします。それでいいと思います。

今は独立して3年目になりますが、直接お客様と係る仕事は殆ど出来ていません。しかし、そんな中でも、お客様とたくさんお話する事が一番大切な事かなと思います。その方が大事にされている事や生活習慣を元に、お家の中でホッとできる居心地の良い空間が創れるのではないのでしょうか。私の中で、

「心地が良い」というのは永遠のテーマです。感じ方は人それぞれで、一人として同じでないので、大変難しいテーマだと思いますが、相手の気持ちを汲み取り理解できる人間になりたいと思っています。理解しあって創りだした空間には、きっと「心地の良さ」が存在していると思います。色々な方と出会って、色々な環境に出向いて、たくさんの事を吸収していけたらと思います。

それから、最近よく考える事は、自然環境の変化です。年々「想定外」とか「記録的」などという言葉で表現される現象が増えているように思います。私の実家の田舎を見ても変化がよくわかります。昔はもっと雪深い地域でしたが、年々降らなくなっていますし、山間部なのでゲリラ豪雨も増えています。山は手を入れる方が減り山が荒れ、松茸なども取れなくなりました。これからも変化は続いていくと思われるので、建築に携わる人間としては、変わっていく自然環境をうまく建築に生かせないか、逆に自然に優しく共存していく方法など、常に意識し考えていきたいと思っています。

今後の事業予定

平成 24 年

- ☐ 11 月 17 日(土)・24(土)※・12 月 1 日(土)
8 日(土)・1 月 19 日(土)・2 月 2 日(土)
3 月 9 日(土)※ ※デザイン賞と合同事業
奈良県地域文化財建造物専門家育成講習会
- ☐ 11 月 28 日(水)・1 月 23 日(水)・3 月 27 日(水)
奈良県すまいアップ住宅無料相談会
- ☐ 11 月 3 日(土・祝)
平成 24 年度 近畿建築士会協議会女性部会
合同見学会(和歌山市加太周辺・友ヶ島方面)
- ☐ 11 月 14 日(水)
理事会(社会福祉総合センター)
- ☐ 11 月 18 日(日)
薬師寺国宝東塔大修理見学会
- ☐ 11 月 24 日(土)
第15回奈良県景観調和デザイン賞第3次審査会
(公開審査/橿原市文化会館)
- ☐ 11 月 27 日(火)
平成 24 年度 第 3 回定期講習
(奈良県産業会館)
- ☐ 12 月 1 日(土)
近畿建築祭

前号で記載のあったグループメールアドレスは
只今整備中です。
完成するまでの間、士会事務所までご連絡下さい。
誠に申し訳ございません。

- ☐ 1 月
新年会・研究部会(茶室勉強会) 予定
- ☐ 1 月 11 日(金)
新年名刺交換会
- ☐ 2 月
近建女 京都見学会 予定
- ☐ 2 月 2 日(土)
限界耐力計算講習会
- ☐ 2 月 21 日(木)
平成 24 年度 第 4 回定期講習会
(春日野荘)
- ☐ 3 月
企画部会 日帰り見学会 予定
- ☐ 3 月 9 日(土)
デザイン賞報告会&まちなかづくり
- ☐ 3 月 13 日(水)
理事会
- ☐ 平成 24 年 11 月 27 日(土)
平成 25 年 1 月 12 日(土)・3 月 16 日(土)
近畿建築士会協議会青年部会

～編集後記～

今回のフープは、見学会や研修会と外に出かけての
記事が多く、楽しく読んでいただけたのではないで
しょうか。私も編集に関わらせていただき、最初に
記事を拝見できるのが、毎回とても楽しみです。
今回はカラーではないのが、とても残念なくらい
いただいた原稿の写真は大変美しいものでした。
お忙しい中原稿をお寄せ下さった皆様、
ご協力ありがとうございました。

平島 朋子